

水戸あれこれ

水戸での生活をスタートして早いものでまもなく1年。水戸のまち（街・町）の景観は、「フラットな地形」と「高低差のある地形」のコンビネーション、そして「水」によって形作られていると感じており、唯一無二のものかもしれない。

平坦な田んぼが広がる東水戸付近を散策し、鹿島臨海鉄道が悠々と走る姿を眺めるのは、リフレッシュに最適だ。その後は、水辺へということでは、浜田十字路から桜川沿いを水戸駅方面に向かう。鴨が泳ぐ姿や、土手沿いを常磐線が走っていたりと、休日の昼下がり、のんびり散歩にはうってつけである。

その先にある千波湖の景色が素晴らしいことは論をまたない。隣接する四季の原や護国神社は、気持ちよい広大な芝生と神社への傾斜のスロープが、これまた散策に良い。

水戸を歩いて思うこと

戦火を免れ、昔の姿で残る水戸八幡宮と、保和苑に至るロマンチック・ゾーンは、水戸に赴任した初期に訪れた場所で、一度で気に入った。傾斜地にあることも風情を増す方向に作用しており、アジサイや紅葉の季節、特に朝、訪れるのがおすすめである。

自動車が猛スピードで通り過ぎ、歩いている人は数少ないが、水府橋から眺める日差しが傾きはじめて時刻の秋の川面、国田大橋から眺める沈みゆく夕陽など、那珂川沿いの一連の景色は、そこにたたずんでみると、ある種の絶景である。

そして、水戸とは「市」であるのだが、どこまでが水戸市なのか、地図を見ると、思ったより大きく、不思議な形をしている。市の西側には小高い丘というか山もある。運動不足解消のため自転車で行ったのは楮川ダムと森林公園。連続するアップダウンと最後の長い坂道で、酸欠の危機に陥った。

無謀な計画であったが、なんとか辿りついた先には、やわらかな春の日差しと満開の大漁桜、美味のチーズタルトと、ご褒美がついてきた。そして、恐竜広場では子どもたちが走り回り、別天地のような場所だった。帰路に立ち寄った西部図書館は、ドーム型の円形の館内と、広く平らな敷地を利用した、周囲を取り囲む大回廊があり、独創的で誇り高い文化を感じた。

さらには、森林公園から少し離れた、山あい場所には農場があり、新鮮な採れたて卵を直販している。その卵は今ではお気に入りの一つである。そのそばには牛のいる牧場も望める。

自分の訪れた場所を述べる「あれこれ」となってしまうが、冒頭の三要素が水戸のまちの特徴であり、その中に多彩な人々の生活や文化、自然が息づいていることに賛同いただけただろうか。出張などで一時的に訪れると、

水戸駅や大工町までの50号線周辺、県庁付近などが水戸の印象となるのだろうが、それはほんの一部分に過ぎない。水戸を巡って全身で体感してみると、もっと違う景色が見えてきた。さらなる発見や出会いがあるであろう、これからの日々に期待が高まる。



日本銀行水戸事務所
所長 稲見 征史



▲水戸八幡宮